

## 「白雪姫」の児童書におけるストーリー展開の比較 - ディズニーアニメ等の影響に着目して -

椋澤 宏紀

童話の中には原典と比べて展開などに違いが生じているものが多く存在し、同じ童話を取り扱った児童書であっても、その一つ一つによってストーリーの細部が異なっていることに疑問を感じた。野口(2000)の論文では、童話のストーリーにディズニーのアニメーションが影響を与えた可能性が示唆されているが、はっきりとは言及されておらず、また、出版社の類型ごとの分析はなされていない。

そこで本研究では、これまでに出版された童話のストーリーの差異を出版社や責任表示、年代で比較し、それぞれに何らかの特色が見られるかどうかを明らかにすることを目的とした。対象とする童話はディズニーのアニメーションと原典のグリム童話とではっきりとした違いがあること、原典を特定できることの二点を理由に「白雪姫」を選んだ。

仮説として「中小出版社は大手との差別化を図るために影響の大きいディズニーのアニメーションのストーリーではなくグリムの原典のストーリーを採用する」また、「タイトル・責任表示に「グリム」の記載がなされている児童書はグリムの原典のストーリーに忠実であって他の影響を受けにくい」とした。分析の対象として「白雪姫」を取り扱う資料のうち、ディズニーのアニメーションの公開年の5年前の1945年以降に出版された児童書に絞り、網羅的な分析を目指し、NDL-OPAC上にある資料のうち、本研究で定めた基準に達した240件を用いた。

分析の観点は、それぞれの児童書において、出版社が大手出版社か中小出版社か、タイトル・責任表示に「グリム」の記載がなされているか、いつ出版されたものであるか、とし、それらで区分された児童書が「白雪姫」のストーリーの場面においてどのような描写を行なっているのかを調べた。

結果として、中小出版社においては必ずしもグリムの原典のストーリーを採用するのではないが、それぞれの場面において、大手出版社に比べて多様な描写を行なう傾向があり、その点で大手出版社との差別化を図っていると考えられた。また、タイトル・責任表示に「グリム」の表記があるものに関してはグリムの原典に近い描写を行なう傾向があることが分かった。出版年での分析においてはディズニーのアニメーションの公開から一定期間においてディズニーのアニメーションに類似した表現が多く見られた。

本研究の課題としては、児童書の形態での分類や、作者による分類、挿絵の描写の比較など、児童書に含まれる他の属性についての分析を行なっておらず、また、実際の児童書の図書館等での閲覧状況との相関を調査できていないことである。その他の属性についての分析と閲覧状況の調査を行うことで、また新たな知見を得ることができよう。

(指導教員 後藤嘉宏)